

bxjaprnind パッケージ (v0.3b)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

v0.3b [2017/09/12]

1 概要

以下の機能を提供する。

- 段落冒頭および強制改行後の行頭における開き括弧の前に（環境により）挿入されるグルーを除去する。このようなグルーが行分割の都合で伸縮すると、ソース上で同じ条件にある括弧の位置が揃わないという不都合が生じる。
- さらに、そのような開き括弧の前の字下げを、著者が予め設定した量に自動的に調整する。
- 強制改行命令 (`\`) のオプションとして改行後に予め設定した量の字下げを行えるようにする。

■対応フォーマット `LATEX`。

■対応エンジン 次の何れか。

- `pTEX` またはその拡張。
- `XYLATEX` (`ZXjatype` パッケージ使用時)
- `LuaTEX` (`LuaTeX-ja` パッケージ使用時)

■依存パッケージ 次の通り。

- `bxttoolbox` パッケージ (`BXbase` バンドルに含まれる)
- 0.3 版以降は `everyhook` パッケージに依存しなくなった。しかし、`everyhook` パッケージが利用可能である場合はそれを利用する。
- `everyhook` パッケージは `svn-proc` パッケージに依存する。

2 パッケージの読み込み

`\usepackage` で読み込む。オプションはない。

```
\usepackage{bxjaprnind}
```

3 機能

以下の命令が提供される。

- `\useparheadparenindent` / `\nouseparheadparenindent` : 段落頭での開き括弧調整を有効／無効にする。
- `\uselineheadparenindent` / `\nouselineheadparenindent` : 強制改行後の行頭での開き括弧調整を有効／無効にする。
※折り返しの行頭の調整には対応しない（これには JFM の修正が必須）。現在 (u)pTeX で標準的に用いられる JFM の場合、折り返し行頭の開き括弧の前には空きは入らない。
- `\prnind[r]` : 段落頭で用いて、当該の箇所での調整を (`\nouseparheadparenindent` の状態でも) 有効にする。オプションの引数が存在する場合は、開き括弧の前の空きを *r* 全角幅とする。
- `\\[n]` / `*[n]` : 強制改行命令のオプション引数が次のように拡張される。
 - `\\[>]` : 行頭に `\lineheadforceindentamount` で指定した幅の字下げを挿入する。
 - `\\[!]` : 開き括弧調整の有効・無効を逆転する。元々の引数 (改行調整の値) と併用する場合は、! や > を長さの値の前に記述する (例えば `\\[>!2mm]`)。
- `\parheadparenindentamount{r}` : 段落頭での開き括弧の前の追加の空きを *r* 全角幅とする。段落下げの空き (`\parindent`) はこれとは独立に入することに注意。
- `\lineheadparenindentamount{r}` : 強制改行後の行頭での開き括弧の前の追加の空きを *r* 全角幅とする。(強制字下げ (`\\[>]`) の空きとは独立。)
- `\lineheadforceindentamount{r}` : 強制字下げ (`\\[>]`) の空きを *r* 全角幅とする。
- `\usedialogueparenindent` / `\nousedialogueparenindent` : 会話用の特別な開き括弧調整を有効／無効にする。有効にすると鉤括弧「『』」について以下のように調整方法が変わる。
 - 空きの量を `\dialogueparenindentamount` で指定された値にする。
 - 段落頭の場合は段落下げの空き (`\parindent`) を無効にする。※臨時に鉤括弧の扱いを通常の括弧と同じにしたい場合は、当該の鉤括弧の前に `\prnind` を置けばよい。
- `\dialogueparenindentamount{r}` : 段落頭・強制改行行頭での会話用の開き鉤括弧の前の追加の空きを *r* 全角幅とする。